

## 令和3年度淀川区区政会議第1回教育・子育て部会議事要旨

日 時：令和4年2月16日（水） 午後6時31分～午後8時32分

場 所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・ 委員8名（8名中）  
梅原委員、奥委員、久原委員、中本委員、西川委員、西澤委員、森委員、米田委員
- ・ 区役所  
田口政策企画課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長  
生駒市民協働課教育支援担当課長代理、佐々木保健福祉課担当係長ほか

内 容：

1. 開 会
2. 政策企画課長あいさつ
3. 議 題
  - (1) 議長、副議長の選出
  - (2) 子育てに関する学びについて
  - (3) 不登校に関する課題について
4. その他

資 料：

### 【当日配布資料】

- ・ 次第、進行表
- ・ 区政会議部会名簿、座席表
- ・ 配付資料一覧
- ・ ご意見票
- ・ 淀川区区政会議 全体会議開催にかかる日程調整について
- ・ よどマガ2月号
- ・ 暮らしの便利帳（淀川区）

### 【事前配布資料】

- ・ (資料1) 令和3年度第1回教育・子育て部会  
ご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容

## 1. 開 会

## 2. 政策企画課長あいさつ

各委員及び担当課、区政会議運営事務局による自己紹介。

## 3. 議題

### (1) 議長及び副議長の選出について

中本委員を議長、梅原委員を副議長とすることに決定。

### (2) 子育てに関する学びについて

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「子育てに関する学びについて」について区役所より説明

・里親活動を行っていますが、近年、里子の気質が変わってきて、自分の子育て経験だけでは養育を行うことが困難となり、日常の子どもたちとのコミュニケーションの取り方をペアレントトレーニングによって学びました。具体的に常日頃から言わないと子どもは怒られているだけで何をしたいのかがほとんど伝わりません。しつくと称しかなり厳しく指導をされている方が、エスカレートし虐待につながっていくケースを多く見てきました。子育て中の親にしっかり支援をしないと虐待はなくなりません。(梅原副議長)

・講座に来る人は問題ないですが、そういう場を設けても来ない人が問題です。出生届を出された方に対して子育て支援室がどうつながっていくのか？3歳児健診から小学校入学までの間にどういう案内がどういう手段で伝わっていくのかを教えてください。(奥委員)

⇒広報誌「よどマガ！」に、「淀川区子育て情報誌ゆめキッズ」のQRコードを掲載しています。紙媒体よりもネットのほうが身近ということで、新たに取り組みさせていただきました。

3歳児健診以降は、令和2年度から4歳児訪問事業を24区で取組みを始めています。淀川区では4歳児には全て、絵本をお配りし、健康教育を行っています。(武田保健・子育て支援担当課長)

・町会で出生祝いをしたいですが情報が入ってきません。個人情報云々がありますが、窓口で出生届を出された方に「地域の方に御紹介してもいいですか」と聞くことは、やったらいけないことなのですか？(奥委員)

⇒母子健康手帳を取りに来られた方に、「地域には民生委員・児童委員という方がいらっしやって、困られたら頼りにしてください」と伝えています。(武田保健・子育て支援担当課長)

・役所の窓口で出生届を出す方に「あなたの子どものために地域にたくさんの方

「サポーターがいて、きっと応援してもらえるから御紹介していいですか」って聞くことはダメですか？（奥委員）

⇒役所で収集した個人情報を、役所の中でも目的が違う窓口を提供できないことになっており、難しいです。（武田保健・子育て支援担当課長）

- ・個人情報と役所は言いますが、近所のおっちゃんやおばちゃんには甘えたいなということで、個人情報にはならないような部分もあり、教えていただけるといことはあると思います。（中本議長）
  - ・町会に全ての人が入っていないので役所が地域に出生等の情報を伝えることはできません。何でこの私の情報を知っているんですかと言われたときに町会の人には困ります。（西川委員）
  - ・手を挙げられない方や隠れている方が一番大事だと思います。私の地域では、地域包括センターの職員に参加してもらい、民生委員でケア会議をしています。守秘義務の問題はありますが、地域で見守ってほしい子どもさんの情報を保健師さんからこういう事例があるというのを下ろしていただきたいです。（米田委員）
  - ・私も同感です。情報が欲しいです。どうしたら世話役をやっている町会の者たちに情報が渡るのか。プライバシーもあるし、拒絶する人も多々いるかもしれないですが、見守ることはでき、最悪（のケース）は避けられるんじゃないかとも思います。だから、その情報をいかに得られるか、ここがポイントです。そうしたらいろんな支援がつながっていくと思います。（久原委員）
  - ・窓口で説明し促してあげたら、役所が地域へ情報提供をすることへの同意は増えるのではないかと思います。役所でも縦割りの中で議論しながら、できることを増やしていただいたら、きっと成果は上がってくると思います。法律だけを単純に解釈すると、多分無理ですが、地域には、受皿であるいろんな支援団体もあるのでそこと一緒に協議しながら、情報提供をすることは、もっと増やせるのじゃないかっていう提案です。（奥委員）
- ⇒民生委員・児童委員さんには守秘義務がある中で、私どもがお願いしていることは、乳幼児健診に来られなかったお子さんのうち、どうしても役所から連絡がつかない方について、各地域の民生委員さんをお願いの手紙を出し、結果も送っていただいています。（武田保健・子育て支援担当課長）
- ・民生委員は、中学校の子が不登校になっていることも知らなかったし、その子が学校徴収金を払っていなかったことも知らなかった。区役所の中同士で、生活支援担当と教育支援担当で情報交換がない。学校徴収金を払っていないことで、子どもが虐待を受けているのではないかという情報は、実際に区役所間で共有されていないでしょう。（奥委員）

⇒学校徴収金を払っていないという個人の家庭の債権のことを私たち職員が知り得る必要は業務上ないので、区役所間で情報を共有することは難しいと思います。(井上教育支援担当課長)

- ・民生委員さんや家庭支援員さんが、地域の見守りを強化することによって、子育てが大変な家庭をどれぐらい把握できるのかが大事だと思います。いろんな要員があつて、子育てがうまくいってない家庭はあると思います。いろいろ支援を受けられなかった人が、川上におられて、どんどん流れてくるのを保護していく、これではいつまでたっても虐待ゼロ社会にはならないので、そのところに支援をしっかりと入れていくということを施策としてやらないといけないと思います。いろんな支援の団体があるという周知をしっかりとやっていかないといけない。広報誌「よどマガ！」への掲載やSNSでの発信を通して、子育て支援施策や子育ての学びの場を周知し、どこへでも助けを求めていけますよというところをしっかりと周知する必要があると思います。(梅原副議長)

### (3) 不登校に関する課題について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「不登校に関する課題について」について区役所より説明

- ・把握されている淀川区の不登校児童・生徒の数はどのぐらいですか。(西澤委員)

⇒淀川区だけで集計はしておりませんが、学年による差もあり、一概には言いにくいですが、1クラス当たり整数の1は超えていると思います。(井上教育支援担当課長)

- ・私の地域では年に3回、民生委員長と主任児童委員、中学校の学校長と指導員、先生と学校の状況の話し合いをしています。そこでも不登校の話があり、毎日行っていない子と、毎日行っても1箇月に1回、2回来る子で計算の方法が違うから、学校も一概に不登校の数は分からないという返答です。欠席日数による不登校の判断基準が国で決まっているんですね。(米田委員)

⇒年間で30日以上が不登校ということです。(生駒市民協働課教育支援担当課長代理)

- ・今は学校に行きなさいっていうことを親御さんは言わないし、学校側も学校に来なさいっていう働きかけはあえてしないみたいです。安否確認や支援学校の案内をされていると地域の学校から返答がありました。私たちが思っていた不登校の考え方が国とか教育委員会全てにおいて昔と今と変わってきているなど感じています。(米田委員)
- ・不登校の子どもたちの要因はたくさんありますが、大きな要因は友達関係と親

子関係です。保健室やスクールカウンセラーの部屋なら行けるという子どもたちは多いです。友達からも離れられるし、家庭からも離れられる場所、居場所。そういう居場所をつくらないといけないなと思っています。不登校前の支援は、そういうスクールカウンセラーや学校の職員の方々の努力である程度いけるかなと思うのですが、家庭の不調に対しては地域の民生委員さんやいろんな方々がチーム養育していかないと難しいと思います。でも、民生委員さんにしても地域の方はなかなか入れないですね。そこを何とかできるような仕組みをどうしたらつくれるのかというところは難しい問題で、専門家をたくさん養成しないとイケないかな、配置しないとイケないかなと率直に思っています。(梅原副議長)

- ネグレクティブの親御さんが問題です。学校に行かずに下の子どもさんを育てるとか、いろんなことが悪循環になっています。親御さんは小学校の先生に話を聞いていただきたいと思っていますが、先生も授業もあるし時間もありません。今は淀川区もスクールカウンセラーが増えて、小学校、中学校に配置されていますが、親御さんにまで届いていない。私たちがもしも本当にチームベースでできるのであれば、そういうチームをつくりながら活動もできると思うのですが。本当に子どもより親の問題じゃないのかなっていうのをすごく痛切に感じています。(米田委員)

- アメリカは、不登校を積極的不登校と消極的不登校に分けています。いじめられている子は絶対支援が必要なので消極的不登校は仕方がない。でも、積極的不登校は親と一緒にいますから解決しないです。そうしたら、不登校にしていることが虐待となりませんか。(奥委員)

⇒積極的か消極的かというのが難しいのですが、当然悩まれる保護者の方は私どもの子育て支援室に御連絡をいただいて、家庭児童相談員がお話をお伺いし、必要に応じて学校とお話をさせていただいたり、いろいろと可能な支援をさせていただいています。

不登校だから必ず虐待かと言われると、そうではないですがそのおそれはあるかと思います。その世帯の状況を見させていただいて、いろんな調査もさせていただいて、必要に応じて、本当に虐待として取り扱うのが適正かを検討させていただくというのが実態です。(武田保健・子育て支援担当課長)

- 親が行かんでええって言っているという情報をつかんで、子育て支援室にこれ虐待って認めてもらえないのですかって言ったことが自分の経験上何度もあります。支援室さんはもっといっぱい虐待案件を持っているから大変ですけど、我々が児童委員として虐待案件だと通報したとしても、受けてもらえてないです。我々地域から、虐待で不登校になっていないかという案件をどんどん言ってくるってくださと言われるのか、それとも言ってくるって無理と

言われるのか、どちらでしょうか。(奥委員)

⇒虐待の通告は、当然虐待じゃないかなと思われた時点で、気になることがあれば支援室のほうに御連絡いただければと思います。(武田保健・子育て支援担当課長)

- ・不登校になる要因はいろんな理由がありますが、大事なのは、ごく当たり前のことを当たり前のようにできることを教えていないからです。あいさつやごみ拾い、履物をそろえるなど、そのルールを守らせることが重要です。だから、淀川区役所の職員の皆さんや学校の先生方が、ごく当たり前の易しいことから、子どもが毎回楽しみに続けてやれる仕掛けを教育していただいたらいいと思います。(森委員)

- ・不登校は、減らすべきものですか、放置しておくべきものですか。(奥委員)

⇒もちろん、学校教育はしっかり受けていただきたいと思いますので、学校に来ていただきたい、不登校は減らすべきものと思っております。(井上教育支援担当課長)

- ・親が子どもに学校へ行かさないというのは虐待という定義でよろしいでしょうか(奥委員)

⇒親御さんが学校に行くことを禁じるということになると、ネグレクトかなとは思いますが、子どもが行きたくないと言っているところを無理やり行かせることができるかどうかと言われると、難しいのかなと思います。(武田保健・子育て支援担当課長)

- ・不登校を親が奨励しているというのは虐待に当たるということを世の中に発信できれば、不登校の定義は変わってくると思います。積極的不登校の中でも、虐待になるのですよということを出せば、かなり不登校は下がってくるのではないかと。淀川区としてそういうことをPRしていくことで、キャンペーンみたいな形で訴えていくということは、不可能ではないような気はしますが。(奥委員)

⇒現状では、学校に行かなくていいと言ったことイコール虐待というところまでは行ってないと思います。(武田保健・子育て支援担当課長)

- ・不登校の要因は一人一人違うので、先生方とか周りも大変だと思います。同じ問題だったら同じ方向で向けると思うけど、学校現場はすごく大変で、問題だと思います。不登校の原因っていっぱいあり、行かない、行かなくてもいいという理由もみんな個々に違うと思うので、それを漠然と一つだけに集めて、それを虐待って言ってしまうと細かい何かが必要なんじゃないかなというのを感じます。(米田委員)

- ・「もう何もしたくなかったら、もうせんでええ」では、これからの子どもが大きくなったときに、本当にどうやって成人していくのかと思います。私も中学

校の不登校に何年か関わっていたのですが、学校のそばまで来ているのに入れないという子どもがいました。そのときは褒めてあげて、また帰る…ということを行いました。学校がどこまで褒めてあげてとか、どこまでしてあげてという、何か手を差し伸べられるような方法があればなと思います。(西川委員)

- ・不登校の理由を私には話せるが、学校の先生には話せない子どももいます。学校の先生を後押しするのも区役所の教育支援として、やってほしいなと思っています。(奥委員)

⇒スクールカウンセラーが、淀川区の予算で小学校を均等に回れるよう施策を打ってきて、今ようやくできる状態に追いついたところでは。他の区はそこまでできてない区が多い中で、カウンセラーの相談できる回数を増やしています。(井上教育支援担当課長)

- ・不登校は学校の問題なのか、家庭の問題なのか、を見極めながら、状況に適した施策を打っていかないと解決しないと思います。権利の問題ばかり言ってもなかなか解決しないので、子どもファーストで、子どもの学校への行きづらさ、その問題はどこにあるのかをチームで考えていかないといけないと思います。子育て支援室だけではいけないし、教育・支援担当だけでもいけない、地域の我々も入ってどう解決していくか筋道を立てていきながら施策を打っていくことが大切だと思います。(梅原委員)

- ・多様な視点で子どもの内面を把握していく努力をし、支援する方法を深めていくと、子どもには、学校は思っているほど大変なところじゃないという意識に変わっていくと思います。現場でもそういう動きをされていると思いますが、働きかけをすることによって少しでも解消していく問題もあると思います。

(西澤委員)